学校での授業改善、子どもたちの学習習慣等の確立を図り、学力向上につなげましょう！

全国学力・学習状況調査は、教科に関する調査と児童生徒に対する質問調査等を総合的に活用することで、授業改善や子どもたちの学習状況の改善に役立てることを目的として実施されています。

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえ、課題がみられた学習内容の系統性を全教職員で意識し、各学年における授業改善や個に応じたきめ細かな指導につなげていきましょう。

教科に関する調査の結果

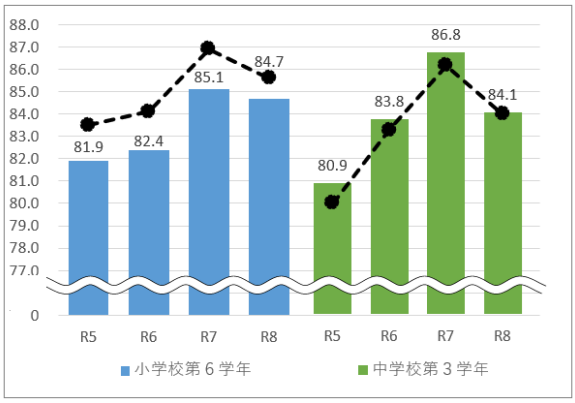
※（　）内の数値は全国（公立）の平均正答率
＊中学校英語は IRT スコア（詳細は３ページ）

平均正答率	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語（3技能）
三重県	61.1%	55.0%	62.2%	56.2%	494*
	（60.9%）	（56.4%）	（63.9%）	（57.0%）	（499）

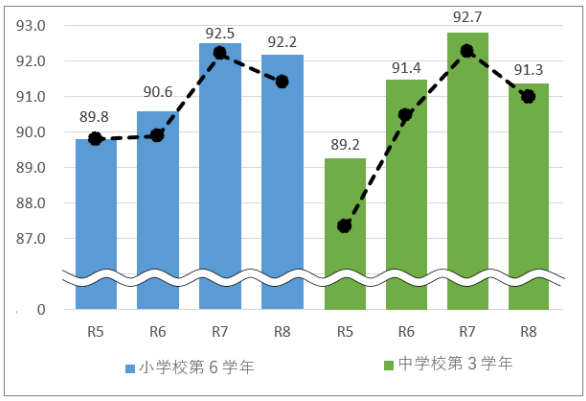
◆調査問題は、学習指導要領の理念、目標・内容等に基づくものであり、小学校第５学年、中学校第２学年までに十分に身につけ、活用できるようにしておくべきと考えられるものが出題されています。

児童生徒質問調査の結果

●自分には、よいところがあると思う

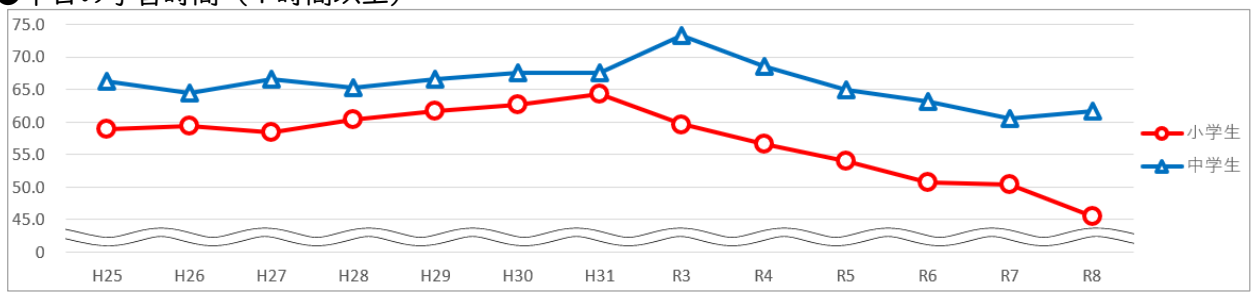


●先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



◆「自分には、よいところがあると思う」と回答した割合が８割を超え、自己肯定感が高い状況です。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した割合も９割を超え、全国平均より高い状況です。

●平日の学習時間（１時間以上）



◆中学生では、「平日の学校以外での学習時間」が１日あたり１時間以上と回答した割合が昨年度より上回り、全国平均より高い状況です。

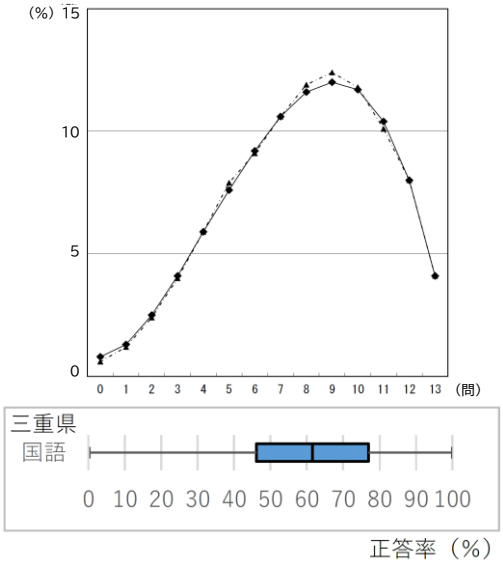
◆小学生では、１時間以上と回答する割合が低くなり、全国平均より低い状況が続いています。

正答数分布グラフ及び正答率・IRT スコアの分布

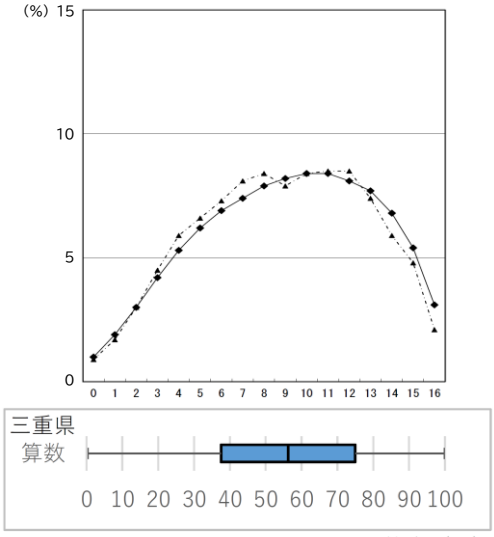
三重県（公立）
全国（公立）

小学校

国語

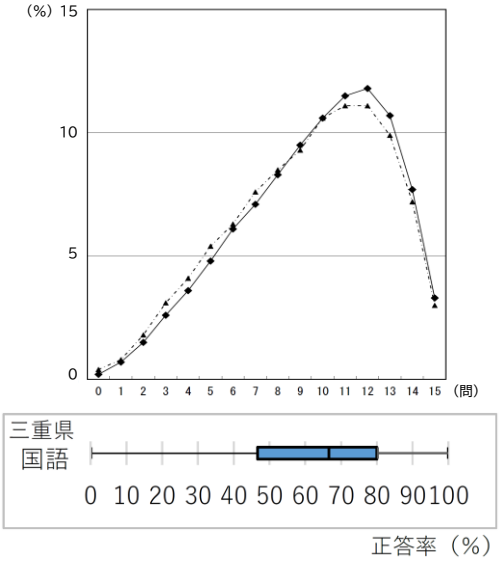


算数

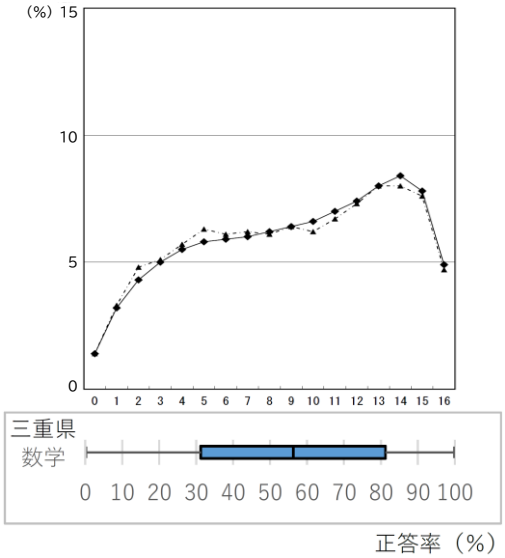


中学校

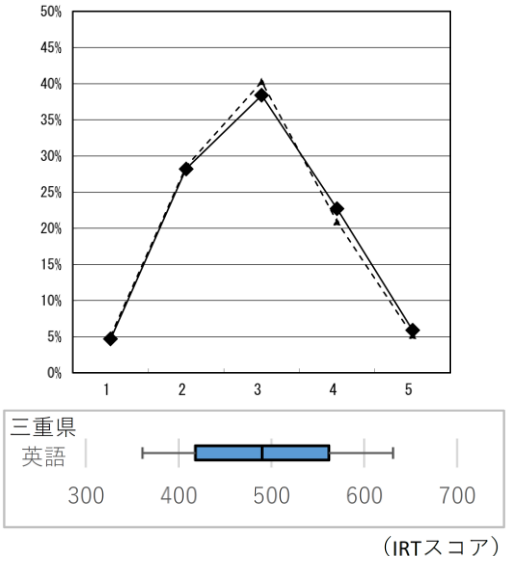
国語



数学



英語



※中学校英語は IRT スコアでの測定のため、正答数分布グラフは提供されていません。IRT スコアを次の１～５の５段階に区切った IRT バンドが提供されています。

１：　　～329
２：330～443
３：444～558
４：559～673
５：674～

自校の分布の状況を、確認し、自校の課題に応じた取組を進めてください

正答数分布グラフの活用を！

すべての子どもたちの学びを支えるために

全国学力・学習状況調査の結果は、児童生徒一人ひとりの学びをよりよく支えるための出発点です。結果をもとに、子どもたちの学びの実態を丁寧に見取り、授業改善につなげていきましょう。

●学習内容をしっかり理解している子どもたちの割合が少ない場合

・授業の中で、より深く考えたり、発展的な内容に取り組んだりする機会を設けることも大切です。
・探究的な活動や言語活動の充実を通して、一人ひとりの学びを広げ、深めていきましょう。

●やや苦手な子どもたちの割合が多い場合

・やや苦手な子どもたちは、学習内容の大筋は理解しているものの、中心となる考え方の理解があいまいであったり、知識や技能の使い方が定着していなかったりします。「あと一歩でできる」状態を見取り、確実な理解へ導くことが重要です。
・「今日のめあて」や「これまでの学びとのつながり」を確認することで、見通しや学習の焦点がはっきりし、集中して学べるようになります。

●苦手な子どもたちの割合が多い場合

・学習の土台となる基礎的な力が身についていないことが考えられます。
・まずは、学習のつまずきを早期に把握し、基本的な内容をしっかり身につけられるよう、丁寧に指導していく必要があります。

苦手な子どもたちへの指導の具体例

子どもの「わからない」を「わかった」「できた」に変えていくために、次のような工夫が効果的です。

●スモールステップで教える

・学習内容を小さな単位に分け、確実に理解できるようにします。
・小さなステップをクリアするたびに成功体験が得られ、やる気や自信につながります。
・どこでつまずいているかを把握しやすくなるため、教師はそのポイントに合わせた指導を集中して行うことができます。

●モデル（お手本）を示す

・考え方や解き方などの思考のプロセスを可視化します。
・抽象的な概念や手順を、視覚的・聴覚的に具体的に示すことで、言語情報だけでは理解が難しいことも、「どうすれば良いか」を明確に把握できます。
・モデルを見て「自分にもできそうだ」という見通しが立ちやすくなり、成功体験を積み重ねることで、「やればできる」という自己効力感を育む基盤となります。

●多様な教材や具体物を活用する

・個々の子どもが持つ得意な認知特性に対応した教材を提供することで、言語情報だけではつまずいていた子どもの「わかる」機会を増やすことができます。

●授業の最後に「たしかめプリント」＆つまずきに応じたワークシートを活用する

・授業で学んだ内容の理解と定着状況を把握することにより、学習のどこで困っているかを見取り、個別に手だてを講じることができます。
・つまずきの状況に応じたワークシートに取り組むことにより、つまずきの克服や「できた！」という達成感につなげ、次の学びへの意欲を高めます。

「たしかめプリント」は、「みえの学力向上県民運動ホームページ」、先生のページからダウンロードできます。

ＩＲＴってなに？

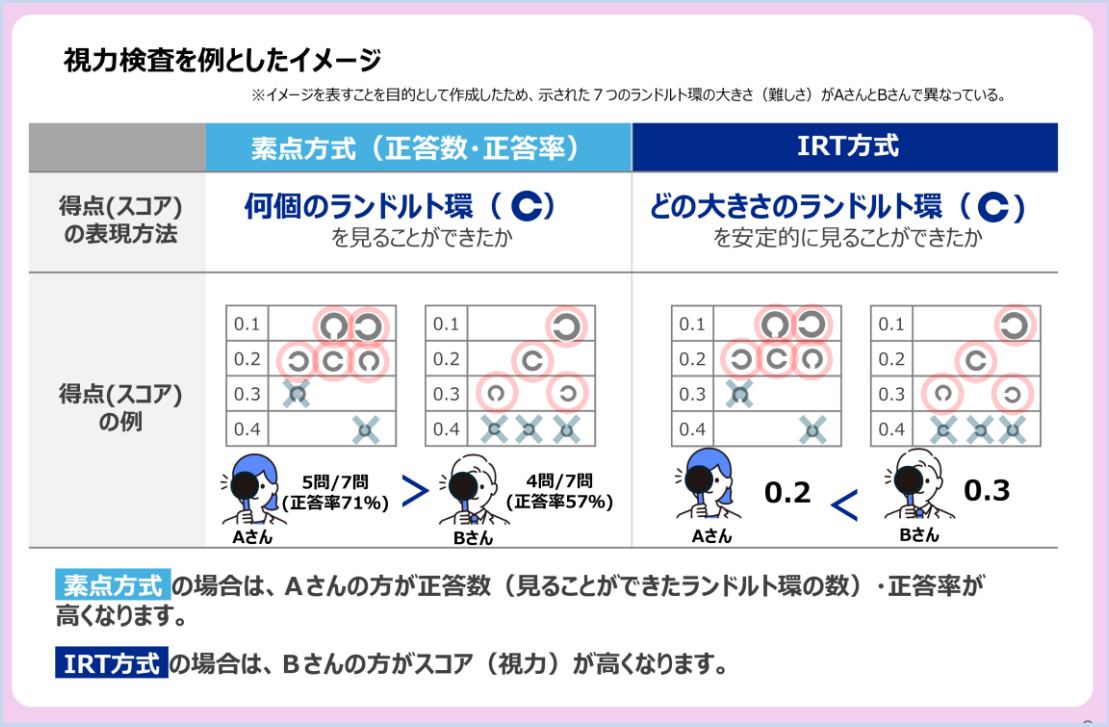
IRT（項目反応理論）

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論

IRT スコア

IRT（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの

IRT のイメージ

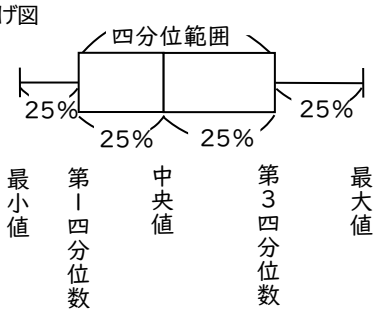


出典「令和７年度全国学力・学習状況調査『中学校理科』IRT を用いた結果返却について」

箱ひげ図ってなに？

箱ひげ図とは、データの分布を大まかに把握するためのグラフです。箱（長方形）とひげ（線）を使って、データの最大値・最小値・四分位数を表します。
図の箱の部分は、正答率の順に児童生徒を並べたとき、中央付近の約 50%の児童生徒が、どれくらいの正答率であったかを示します。

・箱ひげ図



四分位数
データを四等分した数で、下から１/４にある数を第１四分位数、中央値を第２四分位数、上から１/４にある数を第３四分位数と表します。

四分位範囲
データの中央付近の約 50%が含まれる区間の大きさ（第３四分位数と第１四分位数の差）を表します。

小学校 国語

文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが求められています。

小学校国語 2 四【正答率】33.4%（全国差 -0.1）

四 花山さんは、【集めた情報】をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。あなたが花山さんなら、［　　］に入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【花山さんの文章の続き】

4　すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そでででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、［　　］

5　終わりに

これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

（参考文けん）

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

〈条件〉

○ 【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。

○ ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかぎかっこ（「　」）でくくること。

○ ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。

○ 百四十字以内にまとめて書くこと。

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から横書きで書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

◆指導のポイント

自分の考えが伝わるように文章を書くためには、筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考えるとともに、引用するなどして、書き表し方を工夫することが重要です。文章全体の構成や展開を考える際には、伝えたいことを明確にした上で、首尾一貫した展開となるよう、つながりや配列を意識して文章全体の筋道を整えるなど、論の進め方に注意することが大切です。また、引用して書き表す際には、引用する目的を明確にした上で、本や文章などから必要な語句や文を正確に抜き出して書くとともに、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にして書くことが大切です。

指導に当たっては、「読み手に納得してもらうために、自分の考えの根拠となる客観的なデータや事例を示したい。」など、書き手である児童が引用する目的を自覚し、それを教師は児童と共有しておくことが重要です。その際、「なぜ、それらの情報を集めたのか。」や「なぜ、その部分を引用しようと思ったのか。」など、引用する部分を選んだ意図や目的について交流し、自分の考えを言語化する機会を設定することが大切です。

（出典）令和８年度　全国学力・学習状況調査　報告書　【小学校】　国語
（国立教育政策研究所 HP）
https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/primary_lang.html

報告書には、「授業アイディア例」も掲載されています。

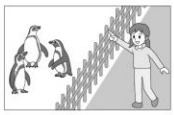
小学校 算数

単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できることが求められています。

小学校数学 2 (3)【正答率】34.1％(全国差 -2.0)

2

(3) AとBの２つのペンギンの広場があります。
下の表は、広場にいるペンギンの数と広場の面積を表しています。



広場にいるペンギンの数と広場の面積

	ペンギンの数（羽）	面積（m²）
A	10	20
B	12	30

ことねさんは、どちらの広場の方がこんでいるのかを調べるために、下の計算をしました。

【ことねさんの計算】

A　10 ÷ 20 = 0.5
B　12 ÷ 30 = 0.4

【ことねさんの計算】をもとに、どちらの広場の方がこんでいるのかについて、下のようにまとめます。
下の ア と イ、ウ と エ の中から、正しいものをそれぞれ選んで、その記号を書きましょう。

【ことねさんの計算】は［ア　1 m² あたりのペンギンの数 / イ　1 羽あたりの面積］を求めています。
商を比べると［ウ　商が大きいAの広場 / エ　商が小さいBの広場］の方がこんでいることがわかります。

◆指導のポイント

二つの数量の関係に着目し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できるようにすることが大切です。

指導に当たっては、例えば、ペンギンの数や広場の広さが異なる幾つかの場合について、ペンギンの広場の混み具合を比べる活動が考えられます。その際、一つの数量（広さ又はペンギンの数）だけでは比べることができないから、どちらか一方の量をそろえる必要があることに気付くことができるようにすることが大切です。そのうえで、図や数直線などを用いて、単位量当たりの大きさを求める式の意味について理解できるようにすることが大切です。さらに、単位量当たりの大きさの意味を理解し、単位量当たりの大きさから混み具合などを判断できるようにすることも大切です。

（出典）令和８年度　全国学力・学習状況調査　報告書　【小学校】　算数
（国立教育政策研究所 HP）
https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/primary_math.html

報告書には、「授業アイディア例」も掲載されています。

中学校 国語

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることが求められています。

中学校国語 4 四【正答率】34.5%（全国差 -4.4）

四　林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文1〉と〈例文2〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈具体的な場面〉



〈例文1〉（擬態語を使っていない例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文2〉（擬態語を使った例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

条件1　〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。

条件2　条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

◆指導のポイント

文章を読んで自分の考えを確かなものにするためには、具体的な場面を思い浮かべ、改めて生徒自身が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることなどが考えられます。その際、文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、精査・解釈した内容を振り返らせることが大切です。

例えば、課題について自分の考えをまとめた後、まとめた考えやその根拠についてグループで交流し、その内容を踏まえて、改めて自分の考えを書き直すといった活動も効果的です。自分の考えを確かなものにするためには、文章を読んで理解したことを他者に説明したり、自分の考えやその根拠などを知ったりすることが重要です。

（出典）令和８年度　全国学力・学習状況調査　報告書　【中学校】　国語
（国立教育政策研究所 HP）
https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/middle_lang.html

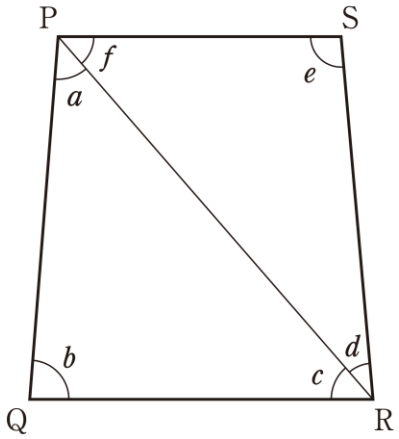
報告書には、「授業アイディア例」も掲載されています。

中学校 数学

２直線が平行になるための条件を理解していることが求められています。

中学校数学 3 【正答率】46.0%（全国差 -3.1）

3 下の図は、四角形ＰＱＲＳに対角線ＰＲをひいたものです。



上の図において、∠aから∠fまでの６つの角のうち、ある２つの角の大きさが等しければ、ＰＳ // ＱＲであるといえます。その２つの角を書きなさい。

◆指導のポイント

２直線が平行であるかどうかを判断する活動を取り入れ、２直線が平行になるための条件についての理解を深めることができるように指導することが大切です。

指導に当たっては、図において、「四角形 PQRS が PS//QR の台形である」といった予想を基に、「PS//QR を示すためには、どの二つの角が等しいことをいえればよいか」について考察する活動を取り入れることが考えられます。この活動を通して、「錯角が等しければ２直線は平行である」ことを根拠に、錯角である∠cと∠fが等しければ PS//QR となると判断できるようにすることが大切です。その際、錯角である∠a と∠dが等しい場合には、PS//QR ではなく PQ//SR となることを取り上げることを通して、着目した錯角が、どの２直線に対する錯角であるかを捉えられるようにすることが大切です。

（出典）令和８年度　全国学力・学習状況調査　報告書　【中学校】 数学
（国立教育政策研究所 HP）
https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/middle_math.html

報告書には、「授業アイディア例」も掲載されています。

中学校英語

社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことが求められています。

中学校英語 10(2)【正答率】26.3%(全国差 -1.5)

10

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(１)と(２)の問いに答えなさい。

(２) まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

<解答欄> ※半角で入力してください

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか

◆指導のポイント

読んだことを基に、その内容に関する自分の意見や感想などを書く際には、主張とその理由を明らかにしたり、順序付けを行ったりすることにより、読み手にとって分かりやすい文章を書けるようにすることが重要です。

そのためには、文章を読んで要点を確認した後、自分の考えをキーワードとしてメモなどに整理させたり、思考ツールに整理させたりすることが考えられます。例えば、書き手の意見に対して賛否をメモに書かせたり、賛成の場合は、理由も同じなのかどうか、反対の場合は、その理由をメモに整理させたりすることが考えられます。

メモに整理させても、賛否を示せなかったり、理由が思い浮かばなかったりする場合には、書き手の意見に対して感じたことや考えたことをペアでやり取りさせ、話題に関する理解を深めてからメモに整理させることも考えられます。ただし、いつでもペアで話してから書くのではなく、単元を通して次第にペアで話さなくても読んだことについて書く力を身に付けさせていくことに留意します。

このようにメモに自分の考えを整理することで、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して、読み手に伝わるように自分の考えや感想などを書かせることが大切です。

(出典) 令和８年度　全国学力・学習状況調査　報告書　【中学校】　英語
(国立教育政策研究所 HP)
https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/middle_eng.html

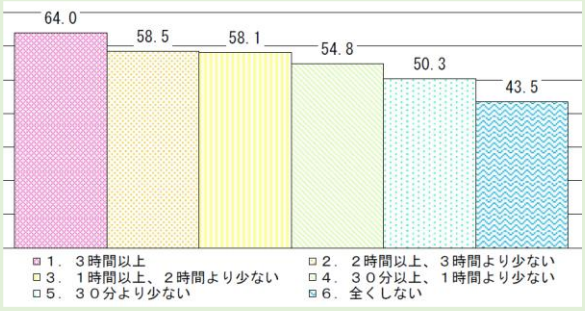
報告書には、「授業アイディア例」も掲載されています。

家庭学習の習慣化を！

学習習慣と学力の関係

全国学力・学習状況調査では、家庭学習時間が長い児童ほど平均正答率が高い傾向にあります。もちろん大切なのは、家庭学習の「量」だけではありません。自分で計画を立て、実行し、振り返るという学びの習慣を身に付けることが、学力の定着と学びへの自信につながります。学校・家庭・地域が一体となって、子どもが自らの学びをデザインできるよう支援していきましょう。

○クロス集計（平日の学習時間と小学校算数の正答率）



令和8年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料（https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/index.html）

― 毎日の習慣の積み重ねが、大きな成長につながります ―

学びに向かう力の育成

家庭学習の習慣の確立に向け、学級活動等の時間を活用し、次のような力の育成に取り組み、子どもが家庭でも主体的に学習に取り組めるように指導することが大切です。

- **計画を立てて実行する「自己マネジメント力」**
- **課題を見つけて改善する「課題解決能力」**
- **粘り強く取り組む「集中力・忍耐力」**

こうした力は、社会で自立して生きるために欠かせない力であり、将来を切り拓く力の基礎となります。



家庭でできる学びの環境づくり

家庭での毎日の積み重ねは、大人になってからも成長し続ける力の土台になり、未来の大きな力につながります。家庭においても次のようなことを意識して子どもに関わり、励ましながら、学びと育ちを支えていただくよう継続して伝えていくことが大切です。

- **計画を立てて取り組む**
- **新しい課題にも前向きに挑戦する**
- **最後までやり抜く**

家庭学習を習慣化することで、がんばりぬく力や授業への集中力が高まります。また、いろいろな学習分野への興味・関心も高まります。

＜編集・発行＞ 三重県教育委員会事務局　学力向上推進プロジェクトチーム
TEL：059-224-2931　E-mail：gakupro@pref.mie.lg.jp